

外来新規患者下半期診療実績 (2024年10月～2025年3月/前年同期間比較)

1) 総数

	2023年10月～2024年3月	⇒	2024年10月～2025年3月
男 性	311人	⇒	398人
女 性	121人	⇒	157人
	190人	⇒	241人

2) 診断

ICD 10	2023年10月～2024年3月	⇒	2024年10月～2025年3月
認知症 等	102人 (男40・女62)	⇒	99人 (男29・女70)
薬物等の中毒症 等	3人 (男2・女1)	⇒	4人 (男3・女1)
統合失調症 等	27人 (男12・女15)	⇒	39人 (男19・女20)
うつ病・躁うつ病 等	68人 (男25・女43)	⇒	98人 (男36・女62)
不安障害・神経症 等	51人 (男16・女35)	⇒	80人 (男32・女48)
心因反応 等	3人 (男0・女3)	⇒	0人 (男0・女0)
パーソナリティ障害 等	1人 (男0・女1)	⇒	0人 (男0・女0)
知的障害 等	12人 (男7・女5)	⇒	11人 (男8・女3)
発達障害 等	13人 (男10・女3)	⇒	28人 (男15・女13)
小児等の行動障害 等	3人 (男0・女3)	⇒	13人 (男8・女5)
その他	28人 (男9・女19)	⇒	25人 (男7・女18)
健康診断	0人 (男0・女0)	⇒	1人 (男0・女1)

3) 年齢

年 齢 層	2023年10月～2024年3月	⇒	2024年10月～2025年3月
10代	23人 (男8・女15)	⇒	31人 (男12・女19)
20代	45人 (男16・女29)	⇒	61人 (男25・女36)
30代	23人 (男12・女11)	⇒	53人 (男18・女35)
40代	34人 (男21・女13)	⇒	52人 (男27・女25)
50代	33人 (男11・女22)	⇒	45人 (男26・女19)
60代	19人 (男7・女12)	⇒	26人 (男12・女14)
70代	49人 (男21・女28)	⇒	38人 (男15・女23)
80代	65人 (男19・女46)	⇒	67人 (男15・女52)
90代	20人 (男6・女14)	⇒	25人 (男7・女18)

『令和6年度下半期は、上半期と比較すると外来総数は増加しており、疾患や年齢別の内訳には大きな変化はありませんでした。同期間の比較においても同様で、総数は増加しています。』

ご案内

- 自家用車、タクシーをご利用の方は、南郷通からお越しいただくと便利です。
- 地下鉄ご利用の方は、東西線大谷地駅で下車して5番出口より徒歩 約10分です。
- 北広島、南幌、長沼方面からはJRバスで大谷地バスターミナルまでおいでください。
- 診療科目：精神科、心療内科、内科

当院は予約制となっております。
初診の方も事前にご予約の上ご来院ください。
診療受付時間 (平日) 9:00～11:30
13:00～16:30
(土曜) 9:00～11:30
* 日曜・祝日はお休みです。

〒004-0041
札幌市厚別区大谷地東5丁目7-10
TEL : 011-891-3737
FAX : 011-891-3868
* 診療予約専用 TEL : 0120-489-892
<http://www.ohyachi-hp.or.jp/>



大谷地ふれあい通信



編集／大谷地病院広報委員会
発行／重仁会 大谷地病院

2025年6月 第82号

レケンビ（認知症治療薬）のフォローアップ施設に認定されました

レケンビ（成分名：レカネマブ）はアルツハイマー病による軽度認知障害または軽度認知症の治療薬です。アルツハイマー病はアミロイドβと呼ばれるたんぱく質が脳内に溜まって病気を引き起こすと言われています。レケンビはこのアミロイドβを取り除くことで進行を遅らせることが期待される薬です。レケンビを投与できる施設を導入施設、レケンビを導入し一定期間が経った方に継続投与ができる施設をフォローアップ施設といいます。レケンビは薬の効果が発揮できるか判定するため、投与前にアミロイドβが脳内に溜まっているかアミロイドPETという画像検査や髄液検査で調べる必要があります。この検査は当院で行うことができませんので、当院は導入施設ではなくフォローアップ施設として認定されました。投与開始から6か月以上経った患者様へレケンビの投与を継続することができます。



レケンビの治療は2週間に1回、約1時間の点滴を18カ月間行うことになります。

当院では6か月以上経過された方が通院して治療を受けて頂くことになります。



レケンビの費用は体重によっても変わりますが、自己負担3割の方で約99,000円/月となります。レケンビは高額療養費制度対象となりますので、例えば75歳以上で2割負担の方は18,000円となり負担が軽減されます。

- レケンビフォローアップ施設となりました
- 精神科病棟のご紹介(1・5・6病棟)
- 新任医師紹介(片山先生)
- リワークプログラムFROG
- リワーク協会認定施設になりました
- 大谷地病院改修工事中!
- 外来新規患者下半期診療実績



精神科病棟のご紹介（１・５・６病棟）

<第1病棟>

1病棟は患者様一人ひとりの生活の質を向上させることを目指し、専門的な治療と支援を行っています。医師をはじめ、精神保健福祉士、作業療法士、栄養士など、様々な職種が連携し、患者様に合わせて社会復帰を目指すためのリハビリや心理的な支援を行っています。

また、定期的なグループ活動やリハビリを通じて、患者様同士の自然な交流が生まれています。そのため、静かではないですが、患者様同士が落ち着いて過ごせるような環境になっています。スタッフの関わりだけでなく、患者様同士の交流を通じてお互いに支え合いながら病気と向き合い、回復に向けて前進していける場所となっています。

1病棟は患者様が病気とうまく付き合いながら、より良い生活を送るための支援を行う場所です。患者様の回復に向けて、スタッフ一丸となって支えていきます。

<第5病棟>

5病棟は精神科療養病棟で、比較的入院経過の長い患者様が過ごされており、統合失調症の方が約8割を占めております。患者様が日々穏やかで、安心して病棟生活を過ごし、退院後も自立した日常生活が送れるよう支援を行っています。

病棟では日々の生活援助や活動を通し、患者様がその人らしくいられるように、患者様が持つ力を引き出して支持できるようなケアを心がけております。

超高齢化社会の中で、患者様の高齢化も進んでいます。多職種連携・多職種協働を強化し、QOLを保ちつつ、患者様とスタッフが笑顔で対話をし、より良い関係性を築きあげ、より良いリカバリーができることを目標にスタッフ一同対応させていただいております。

<第6病棟>

6病棟は精神科救急病棟として緊急性の高い精神的な症状を抱えた患者様に専門的かつ迅速な治療を提供するための病棟です。そのため患者様一人ひとりの状態に応じた個別的なケアを実施しています。

また、当病棟は閉鎖病棟であることも特徴の一つです。閉鎖病棟には、暗く怖いイメージを持っている方もいるとは思いますが、閉鎖環境での入院生活でストレスを感じる患者様もいらっしゃいますが、患者様の意見を真摯に受け止め、スタッフ間で話し合いながら接遇や処遇の緩和に努め、明るく過ごしやすい入院環境を提供できるよう、日々改善を行っています。

今後も病棟に入院された患者様が笑顔で退院されることを目標にスタッフ一同一丸となって対応させていただきます。



新任医師紹介 内科 片山和規Dr

はじめまして。このたび、4月から大谷地病院の赴任した内科の片山と申します。私の略歴としては平成31年に札幌医科大学を卒業し、市立函館病院にて初期研修を行いました。

その後、同大学の循環器・腎臓・代謝内分泌内科にて後期研修を行いました。後期研修中は北海道の各都市で勤務をしておりました。

今回は縁あって、大谷地病院で勤務しております。これまでの知識を活かして、丁寧な診察を心がけてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。何か身体の不調を自覚した際には気軽に受診して下さい。



リワークプログラムFROG リワーク協会認定施設になりました



当院のリワークは、令和7年3月に全国で20番目の日本うつ病リワーク協会の認定施設として承認されました。

施設認定は、質の高いリワークプログラムを提供することを目的として、リワーク施設の運営管理および提供される医療サービスについて評価を行い、適切な内容を行っている施設を認定するものです。施設認定の詳細につきましては、日本うつ病リワーク協会のホームページをご覧ください。

当院のリワークについてはこちらから



大谷地病院改修工事中！

現在、病院全体で改修工事が行われています。第4病棟でも様々な工事が行われていますので、一部分を紹介します。

当病棟では、車椅子を利用している患者様も多くいらっしゃいますが、今まで車椅子用トイレが一つしかありませんでした。そこで、今回車椅子用トイレを増設し、身体が不自由な患者様でも快適に使用できるようになりました。

そして大イベントとなったのはホール全体の床の改修工事です。丸二日間かけ、真っ白な床に生まれ変わり、明るく、清潔感のある空間となりました。きれいになったホールを見た患者様の第一声は「広くて明るくなった」と笑顔が溢れていたのが印象的でした。

不安を抱えて入院された患者様が少しでも気持ちよく過ごしていただけるように、今後とも環境整備に努めてまいります。

